



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより



ためし

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



令和7年9月26日号 文責 上久木田 雄二



少子化は何を招いたのか

前号では、子どもの数が減ったにもかかわらず、

- 子どもを取り巻く環境が好転した話はあまり聞かないこと
 - 多数の目で大人が子どもを見れば、子どもは守られ、大切に扱われ、温室の中で育ち、安全なはずだったこと
 - 現実として少子社会は、子どもから「健全」を奪い環境は悪化したこと
- について書きました。

私は地元の皆さんが、家庭と同じ目線で子どもたちを叱咤激励・指導助言をすることはとても良いことであると思っています。

家庭人として考えれば、子どもが悪いことをしているときは、その時にその場で叱ってほしいと心から思います。

ですから、多数の目で子どもたちの行動を見守ることは大変重要なのです。

それでは、子どもたちの「健全」を奪ってしまった少子社会にはどんな課題があるのでしょうか。

私が課題意識をもつのは、2つです。

見守り方と見守られ方
大切な扱い方と扱われ方

この「守る」とか「扱う」の方法に大きな変化があったのではないかと考えているのです。

兄弟姉妹が多かったころ、ひと学級の人数が多かったころ、地元に子どもがあふれていたころは、「見守り」は本当に「守ること」よりも、「しっかり見届けること」に主眼があったように思うのです。

大人の目が行き届かないほど子どもが多かった時代は、「扱う」は、ほぼ「食べさせる」と同じだったように思います。

今ほど外食産業もなく、手っ取り早い調理補助品も少なく、冷凍食品が高価な時代でした。私の経験から、きちんと「食べさせる」ことで手一杯な家庭はたくさんありました。

今は「守る」とことと「大切にすること」にあまりにも重心が傾いているような気がするのです。

しっかり見届けたり、しっかり食べさせたりすること以上に、温室で囲い、苦しさや悲しさを避けすぎた環境は、実は子どもたちから「健全」から遠ざける結果を生んでしまったような気がしてならないのです。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

